

Medical Center for Student Health

保健管理センターだより



新入生に麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体検査！

・・・集団発生の防止に向けて

昨年、高校生と大学生を中心に麻疹（はしか）が全国的に流行し、神戸大学でも感染拡大を防ぐために全学休校措置がとられました。今年も既に関東地方や北海道での集団発生が報告され、神戸大学では4月に入学する新入生全員に、麻疹をはじめとする4種の感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）の抗体検査と、その結果による予防接種を受けていただくことになりました。

＋ 「たかが、はしかくらい」は大間違い！

麻疹は麻疹ウイルスによる感染症で、日本における患者数は国が定めた医療機関（定点観測対象医療機関）だけでも小児を中心に年間約1～2万人、全体ではこの10倍程度に達すると推計されています。肺炎や脳炎といった合併症を併発する方も約30%あり、5歳未満の幼児と20歳以上の成人に多いとされています。致死率は約0.2%（500人に1人）で、栄養状態や医療体制が整っていない国々においては25%にも達し、日本だけでも毎年10～100人、世界では毎年50万人の方が麻疹で亡くなっています。

＋ 予防接種が唯一の予防法

麻疹は感染力が強く、十分な抗体を持っていない方が麻疹ウイルスに暴露されると、ほぼ確実に感染すると言われています。発症してしまうと、治療は症状を軽減させるだけの対症療法しかありません。予防するのが一番で、唯一の予防法は麻疹ワクチンまたはMRワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）の予防接種を受けることです。

＋ 風邪症状で始まり発疹が・・・

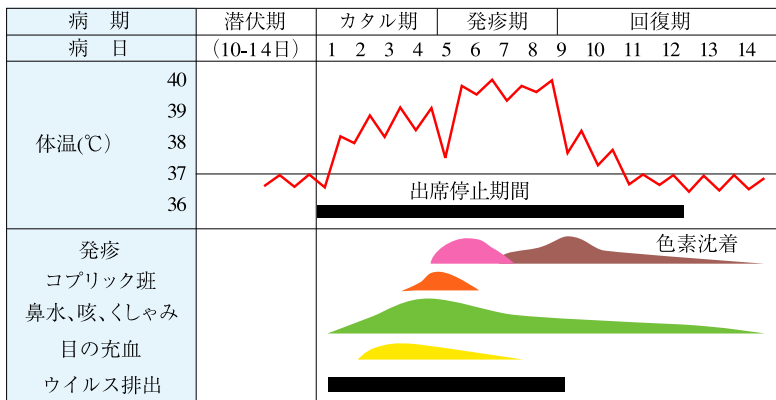
麻疹は、患者さんから出るウイルスやウイルスを含んだ飛沫を吸い込んだり（空気感染、飛沫感染）、患者さんと接触すること（接触感染）によって感染します。10～14日間の潜伏期間の後、風邪のような症状（発熱、鼻水、咳、くしゃみ、目の充血）で始まりですが、この時期（カタル期）に麻疹と気付くことは難しく、他の人に感染させてしまうこととなります（図1）。3～4日すると熱は一旦下がりがけ、その後もう一度高くなり、ほぼ同時に発疹が出てきます（発疹期）。また、口の中にコプリック斑（Koplik 斑）と呼ばれる特有の「できもの」がみられます。さらに3～4日すると熱は下がり、発疹は色素沈着を残して消えますが（回復期）、学校保健法では、他の人への感染の可能性がなくなる「解熱した後3日を経過するまで」を出席停止期間と定めています。

＋ なぜ、高校生と大学生に麻疹が流行したか？

厚生労働省による調査によれば、昨年4月1日から7月21日までの間に休校・休園措置がとられた学校等は全国で263校園にのぼり、その内、高等学校が73校、大学が83校を占めています（表1）。麻疹ワクチンの接種は、日本では昭和41（1966）年に始まり、昭和53（1978）年に定期予防接種に組み入れられました。しかし、平成元（1989）年から平成5（1993）年にかけて使用されたMMRワクチン（麻疹・流行性耳下腺炎・風疹3種混合ワクチン）による副作用問題の影響で、このワクチンが用いられなくなった後も予防接種を受ける人の割合（予防接種率）が低下してしまいました。また、平成18（2006）年に2回接種（1歳と5～7歳の就学前）となるまで、麻疹ワクチンの予防接種は1歳時に1回のみ行われ、予防接種後10年以上を経て効果が薄れ、麻疹の発症を防ぐのに十分な抗体をもっていない方が高校生や大学生に多かったことも、この年代を中心に麻疹が流行したことの原因と考えられています。

＋ 神戸大学における全学休校措置

大学生にあっては、その活動範囲の広さも感染拡大の防止を考える上で重要です。昨年、神戸大学では3人の麻疹患者の発生で全学休校措置に踏み切りましたが、その背景には、①学内伝播が疑われる患者が発生したこと、②有症状時の履修科目の登録者が多数に上ったこと、③複数の患者の有症状時の授業科目に全学共通科目が含まれ



(図1) 麻疹の病期と症状

たこと、④ 患者の所属する学部・研究科の学生だけで学生全体の 27.3 %を占めたこと、⑤ 患者や患者の友人が全学学生寮の寮生であったこと、⑥ 患者が全学サークルや、他大学生も含む同好会のメンバーであったこと、⑦ 医学部医学科 4・5 年次生を対象とする麻疹抗体検査[平成 19 (2007) 年 4 月実施]における陰性者が 7.5 %であったこと、⑧ 複数の患者がアルバイトで学習塾の講師をしていたことなどから、大学として学内外への感染拡大の防止に向けた責務を果たすことができました。休校期間は 3 人目の患者が最後に登校した日から 14 日目までで、その方から感染した可能性のある方々の潜伏期間を考慮したものでした。そして、何よりも大切だったことは、その間に学生や職員の皆さんに麻疹ワクチンまたは MR ワクチン(麻疹・風疹混合ワクチン)の予防接種を受けていただくことで、それがなければ休校明けに新たな麻疹患者が発生することにもなりかねません。神戸大学では、休校期間中にさらに 1 人の麻疹患者が発生しましたが、休校措置のため接触者はなく、休校明け以降の麻疹患者の発生はありませんでした。昨年秋に兵庫県下の高等学校で発生した麻疹の集団発生では、休校措置を含む対応の遅れから患者は 75 人にもものぼっています。

+

麻疹の撲滅に向けて

国際保健機関 (WHO) は、日本における麻疹排除の段階を制圧期 (control 期) と位置付け、麻疹の発生や流行がいつでも起こる状態であるとしています。昨年の流行を受けて国では、今後 5 年間の時限措置として、平成 20 (2008) 年 4 月から 5 年間、中学 1 年生と高校 3 年生を対象に MR ワクチンの予防接種を行うことを決めました。麻疹ワクチンの予防接種が 1 回 (1 歳時) しか行われてい



(図 2) 保健管理センターにおける「からだの健康相談」(左)と「こころの健康相談」(右)



●お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
 [神戸大学保健管理センター] ☎078-803-5245
 〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
 [神戸大学保健管理センター深江分室] ☎078-431-6232

	休校(園)数	学年閉鎖数	学級閉鎖数
幼稚園・保育園	2 (千葉、横浜が各1)	0	0
小学校	18 (千葉が最多で9)	6	6
中学校	27 (東京が最多で8)	20	6
高等学校	73 (東京が最多で16)	14	23
特別支援学校	3 (東京2、奈良が1)	0	0
大学	83 (東京が最多で32)	3	4
短期大学	8 (青森、福島が各2)	0	0
高等専門学校	4 (青森、宮城、大阪、愛媛)	0	0
その他	45 (東京が最多で19)	2	16
計	263	45	55

(表 1) 麻疹による休校、学年閉鎖、学級閉鎖 [平成 19 (2007) 年 4 月 1 日～7 月 21 日]

なかった頃の方々に 2 回目の予防接種の機会を提供するものです。しかし、この方々が大学生になるのは来年以降のことで、既に高等学校を卒業している方々への 2 回目の予防接種の機会提供はありません。また、平成 18 (2006) 年に麻疹ワクチンの定期予防接種が 2 回接種 (1 歳と 5～7 歳の就学前) とされてからも、2 回目の接種を実際に受けた方は対象者の半分程度とする報告もあります。

+

神戸大学では・・・

予防接種を過去に受けたかどうかにかかわらず、自分自身が発症を防ぐのに十分な抗体をもっているかどうかは血液検査 (抗体検査) を受ければ判ります。神戸大学では今年から、4 月に入学する新入生全員に、健康診断時に麻疹をはじめとする 4 種の感染症 (麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎) について抗体検査を行い、十分な抗体をもっていない方には、予防接種を受けていただくことになりました。在学生についても同様の抗体検査と予防接種を受けていただくよう勧めています。感染症の集団発生の防止には、一人一人が「発熱したら登校せず、医療機関を受診し、休養するよう心がける」ことも重要です。自分自身のためにも、他の方々のためにも無理をせず・・・学校保健法に定める感染症と診断されたら、保健管理センターにすぐご連絡ください。

参考

藤井良知、西村忠史、中村 健：小児感染症学 (第 1 版)、南山堂、東京、1985
 多屋馨子：麻疹排除に向けて～2007年の麻疹流行から得られたもの～、

兵庫県医師会、兵庫県 (主催) 平成 19 年度感染症研修会レジュメ
 国立感染症研究所、感染症情報センターホームページ

(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp>)

保健管理センターは・・・

六甲台キャンパス (本部管理棟 2 階) と深江キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置や健康相談 (「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、健康教育、産業医活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、楠キャンパスと名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

保健管理センターだより 72

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」からひき続き連載)

保健管理センターの詳細につきましては、保健管理センターホームページでも案内しています。

<http://www.kobe-u.ac.jp/medical/index-j.html>